

宇佐山郷 名注

<6>

(題字は郷土史家・大江醇氏)

郷土史家 大隈米陽

酒席で歌われる「黒田節」は、末句の「これぞまことの黒田武士」の「武士」が、いつしか「節」に間違われたのだといわれる。

母里太兵衛と佐田庄

し、日出城主毛利兵吉領の農夫二人を奪つて妻子を山蔵に隠し置き、肥後の加藤清正に仕え、復来りて妻子を迎へ行かんとす。当時山蔵は母里太兵衛の食邑なるが惟貞命を受け弥太郎を捕拿す。弥太郎勇力あり、衆皆恐れて逸進む能はざりしといふ。母里其功を賞し、居宅の税三石余を免す。禄仕を契むれど

とある。

これらの資料から、佐田庄の

される。賀来家には天保時代まで孝高の、惟貞あての書かんを

この黒田節の本尊母里太兵衛(毛利但馬)は筑前五十万石の豊田藩二十五騎の一人で、主命により福島正則に使いし、酒を強いられて酒戦に勝ち、福島家秘蔵の名槍「日本号」を飲み取った話は、あまりにも有名である。しかし、この豪傑母里太兵衛が、宇佐郡佐田庄山蔵村(現安心院町)を領有していたことは、一般にはあまり知られていないようである。

領内宇佐郡佐田庄山蔵村を領有したのである。「大神姓大系譜」によれば山蔵大庄屋賀来景吉の項に「天正十五年黒田孝高豊前六郡に封せられ中津に居住す。山蔵は母里太兵衛の領する所となる。太兵衛景吉に請つて代官となす」とあり、景吉の子賀

辞して旧主佐田鎮綱を推す。「文禄年中太兵衛の臣母里九助主に従い朝鮮在陣中逃げ帰り、山蔵の親戚の家に隠る。惟貞命を受け之を豊後に追斬し十人扶持を受く。慶長五年黒田氏関ヶ原役の功により筑前博多に移封となるや惟貞勇武比なきを



福岡市にある旧母里太兵衛邸の長屋門

気骨と豪勇の黒田武士

かつて黒田氏は中津城主を務めた。太兵衛も中津に居住し、

来惟貞の項には「文禄年中長政の鷹師高田弥太郎中津を出奪

も父景吉高齡の故を以て辞す」

た豪勇の者であったことが推測

歌い継がれていくようである。

蔵していたといわれる。

気骨と豪勇で鳴らした黒田武士の典型、母里太兵衛と山蔵村大庄屋賀来惟貞の武勇伝は黒田節とともに、民衆の歌となって